

琉球史（教師用指導書）

■ 琉球の始まり

沖縄本島、宮古、八重山を中心とする南西諸島の島々は、大陸とくっついたり離れたりを繰り返していました。いつ頃から人類が現れたのかは明らかではありませんが、大陸から人々や様々な動物が移り住んだと考えられています。

☆山下洞人（やましたどうじん）

国内では最も古い化石人骨だといわれています。2003年3月1日、那覇市の山下町第一洞穴から、約3万2000年前のものとされる化石人骨が発見されました。女兒のものであることが分かっており、現代人に比べて筋肉が発達しているという特徴があります。

年代の確実な旧石器時代人として、世界的にも貴重な資料とされています。

☆港川人

約1万8000年前の化石人骨と推定。日本で初めて発見された完全な形に近い旧石器時代人骨。縄文人の特徴と似ているところが多く、かなり小柄であったと考えられています。港川人が琉球列島から本州へ渡ったという説もあり、日本人のルーツであるともいわれています。

■ 貝塚時代

今から約3千500年前になると、各地に人々が移り住んだと考えられています。各地の貝塚からは、土器や石器など人々の生活の痕跡が発見されています。

沖縄の歴史では、縄文時代・弥生時代のような区分は行われません。

先史時代は次のように分けられます。

土器の出現以前 … 後期旧石器時代

土器の出現後 … 貝塚時代（縄文時代～平安時代）

☆代表的な貝塚

- ・ 恩納村：仲泊遺跡
- ・ 北中城村：萩堂貝塚
- ・ 宜野湾市：大山貝塚
- ・ 浦添市：浦添貝塚

■ グスク時代の始まり

沖縄では、城のことを「グスク」と呼んでいます。グスク時代は、11世紀頃から始まったと考えられています。「按司（あじ）」と呼ばれる支配者が各地に誕生しました。

☆グスクの流れ

- ・ 小高い山の上に土で城壁を固めて作ったグスク：土塁のグスク
- ・ 石垣をめぐらしたグスク

野面(のづら)積み：加工していない天然の岩石をそのまま組み合わせる
→石の加工道具が発達し、石積みの方法も発展していきます。

布積み：四角に加工した石を一段ごとに積み上げる

《補足》あいかた積み（■護佐丸の活躍を参照）

石積みの最高峰といわれる。石を多角形に加工し、互いに噛み合うように積み上げる技法。強度と耐久性に富む。

☆グスク豆知識

- ・ グスクを築城する際には、多くの場合琉球石灰岩が用いられました。
- ・ グスク内の、石積みなどで仕切られた区域を「郭」といいます。
郭には建物や住居、拝所などあったとされ、防御の役割も果たします。

14～15世紀になると、強い支配者が弱い支配者を淘汰していきます。小さいグスクは滅び、大きなグスクが登場します。

■ 三山分立時代

各地には、按司（あじ）という有力者たちが存在していました。14世紀に入ると、多くの按司たちが束ねられ3つの国にまとまります。

- ・北部の北山王国（ほくざんおうこく）
- ・中部の中山王国（ちゅうざんおうこく）：英祖を滅ぼした察度が王となる
- ・南部の南山王国（なんざんおうこく）

これらの王国は、中国の明帝国と朝貢関係を結び交流を深めていきます。「琉球」の文字が使われるようになるのは、この頃のことです。

3つの小国家は、たびたび戦を繰り返しました。この時代は三山時代とよばれ、約100年間続きます。

☆ 3つの王国と代表的なグスク

- ・北山王国：今帰仁（なきじん）
- ・中山王国：浦添、首里
- ・南山王国：大里、玉城（たまぐすく）、糸数

■ 三山統一 第一尚氏王統

15世紀を迎えると、3つに分立していた小国家が統一の方向に向かいます。南山の佐敷按司であった尚巴志（しょうはし）が、浦添の武寧王（ぶねいおう）を討ち中山王国を支配します。さらに北山の今帰仁城、南山の大里城を攻め滅ぼし、3つの国家を統一していきます。

そして、浦添城を中心としていた琉球王国が首里に拠点を移し、統一王朝が成立します。

三山統一後、初代琉球国王となった尚巴志は第一尚氏王統の基礎を築きました。しかし、地方の按司たちの勢力は依然として強く、完全な中央集権制が成し遂げられたわけではありませんでした。第一尚氏王統では、7代の王が続きました。

■ 護佐丸の活躍

尚巴志が琉球を統一するにあたり、大きな力を貸したのが中城（なかぐすく）の護佐丸（ごさまる）です。護佐丸は、北山の今帰仁城攻めの際、副大将格として活躍しました。南山を滅ぼした時には、その子どもたちが尚巴志軍とともに活躍したと伝えられています。

☆ 築城家としての護佐丸

護佐丸は、築城家としても素晴らしい功績を残しています。座喜味城、中城城の築城に大きく関わりました。

護佐丸は座喜味城を築いた時、これまでの「布積み」といわれる方法に「あいかた積み」といわれる方法を取り入れています。

中城城跡では、三の郭・北の郭に総あいかた積みの素晴らしい技術を目にすることができます。

☆ 護佐丸の最期

王府史書には、次のような記載があります。1458年8月、勝連城主阿麻和利に対抗するため、護佐丸は兵馬を整えました。このことを知った阿麻和利は「護佐丸に謀反の動きがある」と王府に虚偽の密告をします。

それを聞いた尚泰久王は阿麻和利を総大将に任じ、中城城を包囲。“王の命により城を攻める阿麻和利と戦う事は、王へ刀を向けるのと同じ事”とした護佐丸は、自害することで身の潔白を証明しました。護佐丸の三男盛親は自害をまぬがれ、首里城で養育されました

☆ 3つの石積み

・野面(のづら)積み

加工していない天然の岩石をそのまま組み合わせる技法

・布積み

四角に加工した石を一段ごとに積み上げる技法

・あいかた積み

石を多角形に加工し、互いに噛み合うように積む技法
強度と耐久性に優れています

■ 第二尚氏王統

第一尚氏の後を継いで、第二尚氏を築いたのが尚円王とよばれる王です。この王統は、明治12年(1879)の琉球処分まで続く琉球最後の王朝です。

約400年もの長きにわたり、19代の王たちが首里を拠点に統一支配を行いました。貿易や外交活動が盛んに行われ、豊かな文化が育まれた時代でもあります。

■ 尚真王による中央集権とノロ制度

16世紀の初め頃、尚真王が登場します。統一国家ができて情勢が次第に安定していくにつれ、中央集権制を確立していきます。第二尚氏王統第3代尚真王は、50年にわたって在位。琉球の黄金時代を築きます。ノロ（神女）制度を整え殉死を廃止するなど、国家の精神的支配も行いました。

☆尚真王の功績

①按司たちの統一

各地に乱立していた按司たちとその家臣を首里に集め、武器を取り上げました。自己武装しない士族層が登場し、農村のグスクは地域の祈りの場へと変わっていきます。

②ノロ制度の確立

ノロというのは、各村々の祭祀を行う女性たちのこと。ノロ制度の頂点に立つのは、聞得大君（きこえおおきみ）という女性です。国家の祭祀、繁栄を祈る役割をつとめ、国王の妻か娘、もしくは姪がなります地方のノロを統率するため、首里に3名の大アムシラレという女性がおかれしました。

国家から各村々にいたるまで、ノロとよばれる女性たちがピラミッド式に権威をもつようになっていきます。

③殉死の廃止

国王が亡くなると三司官が後追いの殉死をしたと伝えられています。尚真王は

この殉死を廃止しました。

☆祈りの場

- ・御嶽（うたき）

琉球の神話の神々がいる場所。

地域の祭祀においては中心となる場で、祖先神を祀る場でもある。

地域を守護する聖域として、現在も信仰を集めています。

- ・神社

琉球王府より特別な扱いを受けた 8 つの神社があります。

波上宮・沖宮・識名宮・普天満宮・末吉宮・安里八幡宮・天久宮・金武宮。

これらを琉球八社といいます。

■ 薩摩の侵入

17 世紀に入ると、動乱の時期が訪れます。1609 年 3 月 26 日に薩摩の島津軍は沖縄本島北部の運天港に上陸。琉球軍の抵抗及ばず首里城が陥落します。尚寧は、和陸を申し入れ首里城から下城しました。

中国、南方諸国との貿易が経済の中心だった琉球王国。薩摩の侵入によって租税を取り立てられたり、中国貿易の利益の一部が薩摩に持っていかれたりしてしまいます。これ以降、琉球の政治社会は段々と変化を遂げていきます。

☆力及ばなかった琉球軍

- ・薩摩の進入で首里城陥落へ追い込まれた琉球軍ですが、実は薩摩軍よりも 1,000 名も多い兵を動員したにも関わらず敗北という結果におわりました。

→第二尚氏第 7 代尚寧の 1609 年 3 月 4 日、島津軍 3,000 名余りを乗せた軍船 100 隻が薩摩の山川港を出帆。3 月 26 日には沖縄本島北部の運天港に上陸、今帰仁城を落として首里城へ迫った。琉球側は 4,000 名以上の兵を動員したが、日本国内の戦国時代を経験し強兵であった薩摩の本格的侵攻に対し、本土勢力との戦いは境界付近での小競合い程度で薩摩ほど経験を持っておらず、大貿易時代の終結で国力が低下していた琉球軍は抵抗及ばず首里城は陥落した。

■ 沖縄県の誕生

明治12年(1879)の琉球処分によって琉球王国が廃され、沖縄県が設置されます。それ以降も琉球王国時代の行政制度、土地制度が続いていきます。行政制度・土地制度の改革が行われるまでのこの期間は「旧慣温存期」と呼ばれます。

☆方言を標準語へ

沖縄県が設置されると、生活風俗を本土風に改めようとする運動が盛んになりました。沖縄的な名前を改めたりするようになっていきます。

例：仲村渠（なかんだかり）→中村

しかし、習慣的に利用する言葉は県が力を入れて取り組んだにも関わらず標準語に改めることはできませんでした。標準語教育は次第に強くなっていきましたが、それが行き過ぎであると批判の声があがると、県内外に賛否両論の「方言論争」が起こりました。

県内では、新しい時代に対応するためとして、方言を禁止することもやむを得ないとする意見の方が多かったようです。

■ 沖縄戦について

近代における沖縄の大きな転機は、昭和20年(1945)の第二次世界大戦の沖縄戦だと考えられます。

昭和20年(1945)の4月1日から6月23日までの約3ヶ月間に渡って沖縄で地上戦が展開されました。54万という圧倒的な兵力を持ったアメリカ軍は、中部から進入し北部、南部と戦線を進めていきます。追いつめられた人々は、南部で終結を迎えることとなります。

この地上戦では、沖縄県民の9万人余りの犠牲を強いられました。アメリカ軍、日本軍、住民を合わせると24万人余りの犠牲が出たといわれています。

終戦後、犠牲となった多くの人々を悼んで、平和記念公園内に亡くなった方の名前を刻んだ刻名碑が建てられました。ここが世界平和へ向けての発信の場所

となっています。

☆平和宣言

沖縄では「沖縄全戦没者追悼式」で知事が読み上げます。戦争、核などを巡る世界情勢や時代を反映し、核のない世界、平和への願いや決意が凝縮されています。6月23日の「慰霊の日」に、糸満市の平和祈念公園で毎年開催される追悼式で発表されます。広島市で1947年「平和祭」での宣言がスタートしてから、沖縄では1977年から毎年知事によって読まれています。

沖縄戦からどれだけの日が流れても、あの日尊い命が奪われた悲しみは今も沖縄県民の心に受け継がれ、その悲しみと同じだけ平和への思いが強いことが伺えます。

■ 現在の沖縄県

戦後の荒廃の中から沖縄の人々はたくましく立ち上がりました。

美しい自然と豊かな歴史文化。誇るべきものがここ沖縄にはあります。

☆ 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」

5つのグスクと4つの関連遺産が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として登録されています。

- ①今帰仁城跡（なきじんじょうあと）
- ②座喜味城跡（ざきみじょうあと）
- ③中城城跡（なかぐすくじょうあと）
- ④勝連城跡（かつれんじょうあと）
- ⑤首里城跡（しゅりじょうあと）
- ⑥玉陵（たまうどうん）
- ⑦識名園（しきなえん）
- ⑧園比屋武御獄石門（そのひゃんうたきいしもん）
- ⑨斎場御獄（せーふあうたき）

これらの中でも、中城城跡は造った当時の80%の城壁がそのまま残されていま

す。数あるグスクの中でも、一番残り具合がよいといわれています。
野面（のづら）積み、布積み、あいかた積みのすべてを見ることができる「石
積みの博物館」。南部・中部・北部の半分が見渡せることから「沖縄が見える場
所」ともいわれています。実際に沖縄を訪れ、五感を使ってその魅力を感じて
みませんか。